

2023年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

1 活動概要

活動団体名	経営学部中西晶ゼミナール
活動テーマ	北海道仁木町におけるアグリ&ワインツーリズムを通じた地域活性化
活動期間	2023年 6月 20日 ~ 2024年 3月 31日
主な活動場所	北海道余市郡仁木町
連携地域 連携団体等	仁木町、合同会社仁木産業振興社、北海学園大学、札幌市立大学、東京理科大学、拓殖大学、目白大学
活動者数	26名（教員1名学生25名） ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2 活動内容 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

北海道余市郡仁木町の地域資源であるワイン産業が生み出す生産物の価値、ならびに経験価値の理解、地域ステークホルダーの共同体系の創出、集客効果のあるコンテンツ制作、ターゲットセグメントにおける地域ブランドの確立を目指し、以下の活動を実施する。

- 1) 経験価値の源泉であるワインの生産工程への参加・生産物の企画・デザイン・販売
 - 2) 他の地域資源との組み合わせによる旅程先としての価値創出スキームの企画・経営
- また、これらの活動を通じて、本学を含む大学生と地域との交流のあり方を検討する。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

本活動は、東京（明治大学、東京理科大学、拓殖大学、目白大学）および北海道（北海学園大学、札幌市立大学）の複数の大学の学生が協働して、仁木町のステークホルダー（仁木町役場、仁木町観光協会、合同会社仁木産業振興社等）とともに調査、課題解決に取り組むことが特徴である。うち、本学以外の3大学（北海学園大学、拓殖大学、目白大学）は明治大学経営学研究科出身の教員が中心となって学生を指導していく。国産ワインの有力市場である東京ならびに札幌市域における市場分析やマーケティング施策に取り組むにあたり、ゼミ横断的な形でそれぞれの専門性を活かし、経営についてのビジネスデザインの在り方や組織構築の在り方、マーケティングなど理論から実践に至るまでの多面的な学びを実現することも目指す。本年度は取り組み初年度であり、今後継続的に活動していくための基礎作りである。まず、6月に教員と仁木町関係者との現地打ち合わせにより活動計画のコンセンサスを醸成する。その後は、東京の学生、札幌の学生がそれぞれ地元市場（最終消費者、ならびに酒販店・料飲店・旅行業者）の取材を実施し、国産ワイン市場の構造や、ステークホルダーにおける認知状況、北海道地域のツーリズムに対する意向や評価を調査・把握し、オンラインミーティングによって情報共有する。同時に、北海道の大学においては、仁木町内における圃場において醸造用ぶどうの育成作業に参加し、農業体験の価値を把握するとともに、価値訴求手法を検討する。圃場でのフィールドワークにおいては、360℃全方位カメラ等を活用し、東京の学生にも圃場での体験を共有すると同時に、ツーリズム向けマーケティング施策で活用可能なコンテンツ素材の収集を行う。圃場でのフィールドワーク、札幌と東京における市場調査結果を元に、このプロジェクトで生産するワイン製品のコンセプト・仕様・数量などを決定する。9月の収穫期には、札幌・東京の学生と現地に訪れ、ともにぶどうの収穫、圧搾作業へ参加する。圃場での一連の作業、現地ステークホルダーへのインタビュー調査、醸造作業への参加、製品のパッケージングやマーケティングプランの立案を通して、ボランティアを含むワイン製作活動ストーリー自体のコンテンツ化の可能性も探る。さらに、ワイン製品販売に向けた準備と、ツーリズム振興施策立案作業をすすめる。年度末には、ワインの瓶詰め、パッケージング、出荷、販売施策、ならびにツーリズム施策提案発表会を実施し、次年度へ展開していく。

活動スケジュール

6月4日～5日：教員による現地打ち合わせ（済）。
6月20日：東京地区の4大学の学生によるキックオフ・ミーティングと課題導出。各グループに分けての課題への取り組みと調査。
7月31日：東京地区の4大学の学生による中間報告会（北海道地区の大学、仁木町関係者は遠隔での参加予定）。
8月12日、19日：現地イベントへの個別参加
9月22日～25日：現地での合同合宿。現地でのワイン収穫作業。イベント等の提案。
10月～12月：各大学での研究発表（プレゼンテーション大会等）、現地作業への個別ボランティア。
1月31日：6大学での最終発表会。活動の振り返り、次年度に向けた検討

活動成果

9月に現地を訪問した際には、先方のワイナリーにおいて、収穫・除梗作業のボランティアを行った。これらの作業は人手を多く必要とするものであり、ワイナリーの方々から「とても助かった」「また来てほしい」との感想をいただいた。また、仁木町、余市町を中心にフィールドスタディを行い、現地の状況についての理解を深めることができた。また、この活動の状況は、北海道新聞 2023年10月4日の記事「都市部の社会人ら、ブドウ収穫お手伝い 余市・仁木 関係人口増に期待」<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/919719/>に4年生のインタビューが掲載された。

さらにこの現地経験をもとに本学は3つのグループに分かれて具体的提案をまとめ、明治大学駿河台キャンパスにおいて、1月31日に地域の関係者を招き、6大学の学生がプレゼンテーションを行った（Zoom併用のハイフレックスで開催）。各グループのテーマは、「仁木町ワインの知名度向上に向けて（ブランディング）」「長期ワイン生産プロジェクト（関係人口の創出）」「ワインを活用した地域活性化に向けて（ワインツーリズム）」である。次年度以降、これらの実現に向けて、さらに現地のステークホルダーの方々や他大学のメンバーとのコミュニケーションをとりながら検討していく予定である。